

A. 胆管に残っていれば症状出るかも

きょうの

セカンドオピニオン

Q. 結石で2度目の手術に。
胆のう摘出すれば治るか

息子(56)が急性胆管結石で手術を受け、再度の検査で胆のうに結石が見つかり、また手術を受けます。胆のうを取れば治りますか。(茨城県、82歳、女性)



答える人

鈴木淳一診療部長

板橋中央総合病院消化器病センター

(外科)

胆のうは、脂肪の消化を助ける胆汁をためる袋状の臓器です。胆石症は、結石ができる場所によって、胆のう本体(胆のう結石)▽胆汁を通す胆管(胆管結石)▽胆汁を作る肝臓内の胆管(肝内結石)――の三つに分類されます。全体の8割が胆のう結石です。

胆石は、胆汁中の余分なコレステロールが結晶化するもの、体内の色素が原因のものがあります。多くは前者で、肥満や脂質異常症、糖尿病などで血中コレステロールが増加することで起きます。

胆石症は無症状の人もありますが、多くはみぞおちや背中が激しく痛む「胆石発作」を起こします。脂っこい食事の後や食べ過ぎで発作が出ることが多く、その場合は治療をします。①内視鏡手術②内服薬で結石を溶かす③体外衝撃波で結石を砕く――があります。②や③は小さい結石のみに適用でき、大きい場合は、①の手術で臓器ごと取り除きます。

相談者の息子は、胆管結石の手術後に胆のう結石が見つかっています。これは、胆のうから胆管に落ちた結石が先に見つかり、無症状だった胆のう本体の結石が後から見つかったと推測されます。胆のうを摘出すれば結石はできなくなり、治癒しますが、胆管に結石が残っていると症状が出る場合があります。

術後は胆汁が絶えず出ている状態になり、脂肪分の高い食事をすると下痢をする方も一部います。脂肪分の高い食事を控えましょう。【聞き手・井出礼子】